

平成24年第1回定例会（3月）一般質問

(2) パイプハウスの雪害に対する支援について

○ 議員 宮下裕美子 次に移ります。パイプハウスの雪害に対する支援についてです。先ほど他の議員から一般質問がありましたが、私も今回の雪によるパイプハウスの被害が甚大になると予見され、早い段階から町と議会は非公式ながらも協議を進めたこと、町側が早い判断をしたことに対して喜ばしいし評価も高いと思います。町長は何度も施設園芸は月形町農業総生産額の2分の1を占めると言っておりそれは当然ですが、それ以上に施設園芸は労働集約的農業で雇用の場、資材投入額が多い、額面以上に地域経済への影響は大きく、施設園芸を支えることが月形町の農業振興に重要であると考えています。しかし3月6日北海道新聞にパイプハウス2分の1補助、総額1億円と記事が出ましてインパクトが大きかった。大きかった分数字が一人歩きしている感が否めません。2分の1補助1億円が決定事項のように取られ変更余地のない印象を受けた人が多くいたと聞いています。これは支援根拠が曖昧だったこと。数字が発表された後の説明がほとんどなかったことが問題ではなかったのか。パイプハウス被害を受けた農業者、施設園芸以外の農業者、他の自治体議員や町民から問い合わせを受けています。農業者の実態にあった支援を求める声も聞いていますし、様々な場面で混乱が起きているのではないかと考えています。支援の具体的な数字が発表される前に支援目的や根拠、方針を明確にすべきだったのではないかと考え、今回一般質問を通して町長の支援方針を明確にさせていただきたいと思い、一般質問に取り上げました。

最初に質問いたします。町政執行方針および新聞等で公表された支援策の位置づけは「災害復旧支援」なのか「農業振興策による支援」なのか。位置づけの違いにより、支援の根拠も今後の展開も変わってくると考えますので、町長はどのように考えてこの支援を打ち出したのか、お伺いします。

2点目として先ほど申しましたように情報が行き届いていないことによる混乱があると考えます。この混乱をどのように解消するのか、今回の答弁で一つの解消の手だてになると思いますが、それ以外の具体的な手だてについてもお伺いします。

○ 議長 笹木 英二 町長

○ 町長 櫻庭 誠二 1点目の質問であります。「災害復旧支援」なのか「農業振興による支援」なのかということですが、まさしくこれは「災害復旧支援」であると考えています。先ほど議会の要望意見書の中にも「融雪災害における復旧に関することを要望する。」と

道知事、北海道議長会にも宛てているところでもあります。雪害がなければ今回の対策は打っていません。広義の意味で農業振興ということもありますが、これはまさしく災害復旧であると判断し、今までも話してきたところでもあります。また情報が混乱しているのではないかということです。3月5日に議員協議会審査結果という状況で議長、副議長が私の所に来ていただき、4番目に情報が一人歩きしないよう情報のコントロールに配慮願うということでしたし、そのとき農協組合長にも出席いただき考え方の基本ということは、しっかり農家の皆さんに伝えて下さいということで、それ以降で情報が錯綜、混乱しているということは聞いていませんので、そういう認識はなかったところでもあります。

○ 議長 笹木 英二 宮下裕美子君

○ 議員 宮下裕美子 町長から位置づけは「災害復旧支援」であると聞いたので、3月5日の議員協議会で聞いた時に私個人としては「農業振興策による支援」と理解していたので、そこで少しずれていたと自分なりにも思いますし、それも含めて言葉の使い方かどうかわかりませんが、災害復旧という観点ではなかった。そこにおいても理解が不十分であったと認識しています。先ほど町長が災害復旧と言われたので、災害復旧ということでは今回の豪雪は記録的なもので、全町の様々な所に影響しています。農業だけでなく商工業など他産業あるいは住民福祉分野でも皆さん被害を被っているところがあり、薄く、広く、少しずつということでもあるし、勿論個人による過失で終わることもありますが、全体的に災害を被った中で総合的な対応が求められるのではないかと考えます。午前中の答弁では今回パイプハウスの支援はするけれどそれ以外は個人の過失によるところもあるので、それ以上は考えていないということだったのですが、それでは災害復旧という考え方では難しいのではないかと思います。町長いかがでしょうか。

○ 議長 笹木 英二 町長

○ 町長 櫻庭 誠二 私はパイプ災害を受けたパイプ補助というのは、災害復旧の名目以外に見あたりません。議員協議会でもそのつもりで説明していますし、それは多くの議員が同意していると感じておりました。それから色々な分野でということですが、情報連絡会議をやった聞き取りでは多くの被害状況の中では福祉施設職員の通勤が足止めされたと言われていました。学校についても休校が続くという状況ですが、パイプ被害のような甚大な被害が他の所で起きていると考えておりません。

○ 議長 笹木 英二 宮下裕美子君

○ 議員 宮下裕美子 今回のパイプハウス支援についてですが、災害復旧がメインとなると支援理由としてはどのようなところまで行うかという基準として判断が難しいと考えています。先ほど農業振興策は考えられないということでしたが、例えば農業振興策と考え

た場合、今回のハウス被害は施設園芸に甚大な被害を与えて生産力がかなり低迷する。そのことによって月形町全体の経済が疲弊する。だからこそ農業の施設園芸という部分をしっかりサポートして行くことが重要であるということで、施設園芸に対して予算付けをして農業政策としてそこをきちんとサポートすることが地域経済につながるという発想で今回のハウス補助が行われると思っていたのですが、災害復旧という名目で今回パイプハウスの補助をするとすると、どのようなかたちが最終的な目標になるのでしょうか。今までそのままというかたちになるのですか。

○ 議員 宮下裕美子 先ほどの災害復旧という中で雪害があったからパイプハウスに被害が出たので支援するということでしたが、今回町が打ち出した2分の1補助上限1億円ということで、新規のパイプハウスを現実にとどのくらいの方が導入するのかという中で、今施設園芸をやっている農家の方々は現実的に投資がしづらい状況にあると聞いています。一般的な農業者より高齢化率が高くあるいは収益性も低いし後継者も不足している状況の中で、今回つぶれたから次々、新しいハウスを投入できないということで、現実には先ほど言った産業復旧に至らないのではないかと考えます。もし施設園芸を地域経済として復旧させるのなら、もう一つ同じ予算枠で違うやり方ができるのではないかと考えます。例えば今皆さん方パイプハウスの壊れた状況を見ながら修復を検討しています。パイプハウスを修復するための型の購入やあるいはリース事業、それから本年度は春先作業があってとても新しいハウスを立て替えるまで行かないということも聞いていますので、パイプハウス助成についても今年度だけでなく、今年は今あるハウスの復旧で古い物を直してある程度の基盤を確保することに集中して、来年度以降も長いスパンで施策があれば将来的に復旧していく方向も取れるということもいくつか聞いています。今ある新規のハウス事業を例え展開していても、元のように戻らないのでは。枠がある程度復旧という目的があって生産力の維持という例えば指標を元にして、復旧したか判断するならば、様々なプランを組み合わせることで復旧を支援することもできるのではないかと考えますが、それについて町長いかがでしょうか。

○ 議長 笹木 英二 町長

○ 町長 櫻庭 誠二 何点かあったと思いますが、例えの話の中で変形ハウスの型を導入するときの助成ということがあったと記憶しておりますが、これについては助成対象の一つにすることを、組合長、正副議長と確認しているところであります。もう一点、リース事業という意味合いがちょっと分かりません。50%補助残りの部分については農協が3年から5年間の無利子の融資をやる状況の中で、なぜ新たにリース事業を立ち上げなければならないのか。その理由付けが全く分かりません。

それから今年は間に合わないから明年度以降ということであります。豪雪対策というのは1年に限ったものでやるというのが基本的なことでもあります。今の宮下議員のそういう要望が極めて多いのか。今判断する数字なども持ってありません。それが現実的な姿です。

○ 議長 笹木 英二 時間ですので、質問の足りないところがあったら予算委員会の総括質疑でやっていただきたいと思います。

○ 議長 笹木 英二 宮下裕美子君

○ 議員 宮下裕美子 少しだけいいでしょうか。今、数字を持ち合わせていないということで、今後調査が進む中で農業者の意見も聞きながら制度を練っていただきたい。今回の2分の1、1億円は議決していませんので、制度設計自体が流動的なので、午前中の答弁からも最初は共済金が基準になるので実際4割補助だったものが全体の2分の1つまり5割補助と変わってきていますので、そのように流動的であれば今後被害調査の実態で農業者の話をきちんと受けながら制度設計していただきたいと考えます。今の質問は終わります。